

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和5年9月29日)

事業コード	R5-建-継-15	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業	部局課室名	建設部河川砂防課
事業種別	河川改修	班 名	河川・ダム・海岸チーム(tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 桧木内川	担当課長名	河川砂防課長 木次谷 英成
箇所名	仙北市西木町	担当者名	チームリーダー 玉尾 毅
プランとの 関連	戦 略	防災減災・交通基盤	
	目指す姿	強靱な県土の実現と防災力の強化	
	施策の方向性	頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	S58~R20(56年)	総事業費	78.5億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長L=4, 100m、計画高水流量Q=1, 200m <sup>3</sup> /s(1/20)					
事業の立案 に至る背景	桧木内川は河道が蛇行し河岸は無堤の状態では豪雨のたびに災害が発生している。昭和47年7月豪雨では、当該区間及び直下流部において大災害が発生していることから、河道掘削及び築堤を実施し、洪水による家屋浸水被害の解消を図るものである。					
事業目的	浸水被害の解消を図り、地域住民の生命と財産を守り、安全で安心できる地域づくりを推進するものである。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増減	理由等	
	事業費	7,849,000	7,849,000	0		
	経費内訳	工事費	4,656,900	4,656,900	0	
		用補費	2,251,600	2,251,600	0	
		その他	940,500	940,500	0	
	財源内訳	国庫補助	3,924,500	3,924,500	0	
		県債	3,532,050	3,532,050	0	
その他		0	0	0		
一般財源	392,450	392,450	0			
事業内容	掘削、築堤、護岸、橋梁、用地補償	掘削、築堤、護岸、橋梁、用地補償				
事業の進捗 状況	全体計画	78.5億円	令和4年度末投資額	47.5億円	進捗率	60.5%
事業推進上の 課題	残区間の整備に当たっては、現河道を極力活用し、環境保全対策との調和を図りながら、コスト縮減を推進し、事業の進捗を図っていく必要がある。					
関連する計 画等	新秋田元気創造プランにおいて、県が継続的に取り組むべき基本政策「防災減災・交通基盤」の施策の方向性③の「頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進」に位置付けられている。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	用地取得・補償にも期間を要しているほか、県全体での予算制約と全県域での浸水被害発生による情勢の変化により、事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把 握の手法及 び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川改修済み延長 / 要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目標値 a	46.6%(R4末目標)		データ等の出典	河川砂防課調べ	
	実績値 b	46.7%(R4末実績)		把握の時期	令和5年3月	
達成率 b/a	100.2%					

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	未改修区間の河川断面が狭小であることから、豪雨時に浸水被害が発生している。特に平成19年・平成22年の豪雨では、床上浸水被害も発生している。このため、早急に事業進捗を図る必要がある。	30点
緊 急 性	未改修区間は流下能力が低く、近年の豪雨等により浸水被害が発生している。また、当該区域は重要水防区域に位置付けられていることから、緊急性は高い。	10点
有 効 性	改修が完了した地域では、災害防止効果が発現されている。	12点
効 率 性	事業の費用便益比は1.60であり、効率性は高い。また、現河道での河川改修であり、経済性においても有利であるほか、排水樋管の統合を図り、コスト削減に努めている。	13点
熱 度	地元より河川改修事業の要望がある。また、護岸整備を最小限とし、山付け部や現況河道を極力保全し生態系に配慮している。	23点
判 定	ランク ( ● I ○ II ○ III )	88点
	地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続、早期完成を目指すべき。	
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。
----------------------

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (R5-建-継-15)  
箇所名 (一級河川 桧木内川 仙北市西木町)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	126戸
			10戸以上49戸以下	7		
			9戸以下	3		
	浸水面積		60ha以上	10	10	
			10ha以上60ha未満	7		
			10ha未満	3		
	重要な公共施設		3施設以上	5	5	老人保健施設「にしき園」 西明寺小学校、西明寺中学校 市立にっこ保育園
			1施設以上	3		
			なし	0		
	整備計画の策定					
関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5	H26.3	
		協議中であるが特段問題ない	3			
		策定に着手していないが予定がある	1			
		予定なし	0			
計			30	30		
緊急性	災害発生の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	54% (現況650/計画1200=0.54)
			40%以上60%未満	7		
			60%以上	5		
	秋田県水防計画	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	R5水防計画書より区分B
			評定基準区分B	3		
計			15	10		
有効性	河川整備の有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
			災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性		安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸 高水敷整備
			親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況		都市計画区域の存する地域	3	0	
			地域開発の計画がある	1		
予定なし			0			
計			15	12		
効率性	事業の投資効果	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	1.60
			1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減	該当項目数	3項目以上	5	3	排水樋管の統廃合 地形を生かした線形
			2項目	3		
			1項目	1		
			なし	0		
	前回計画との比較	前回計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5	
10%以上30%未満の増加			3			
30%以上の増加			0			
計			15	13		
熟度	地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画		積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	要望書H28.6月 仙北市
			参画している	3		
			参画していない	0		
	事業の進捗状況	進捗率 (事業費)	8割以上完了	10	8	(R4)47.5/(計画)78.5 =60.5%
			5割以上完了	8		
			1割以上完了	5		
			1割未満	2		
環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮 (秋田県公共事業環境配慮システムでの 環境配慮事項)	3事項以上	5	5	湾曲部や瀬、淵の及び樹木の保全 低水路は平坦な河床を避け、自然 な形状とする 排出ガス対策型車両や機械の採用	
		1事項以上	3			
		環境配慮事項がない	0			
計			25	23		
合計				100	88	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		